



持続可能な森林経営の実現

「国産材の円滑な流通システム」と「森林資源サイクル」の構築を目指して



ノースジャパン素材流通協同組合

North Japan Wood Material Distribution Cooperative



持続可能な森

「国産材の円滑な流通システム」と「森林資源サイクル」の構築を目指して

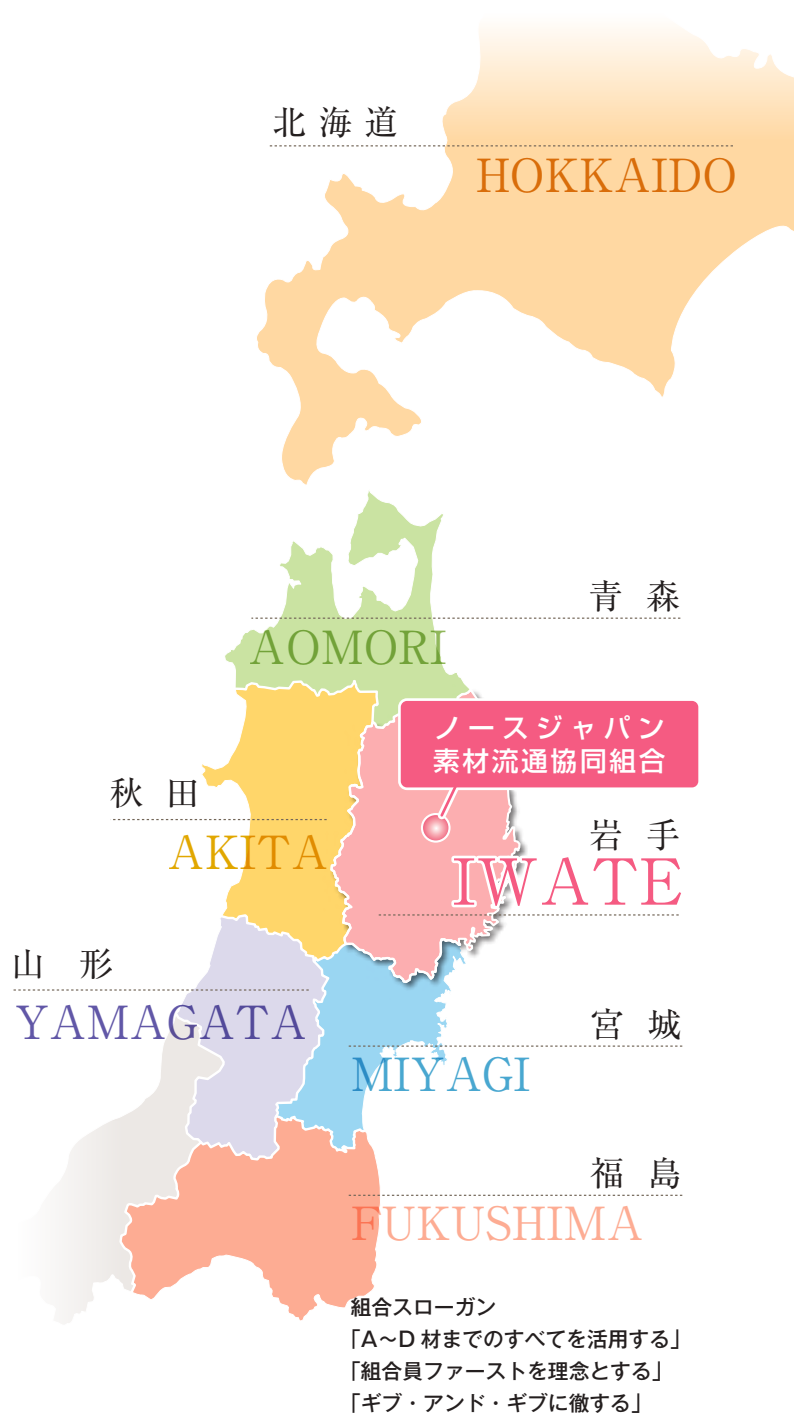
我が国の森林・林業をめぐるのは、森林資源の充実、環境資源としての役割への関心の高まり、木材産業における工場等施設の新・増設、木質バイオマス発電事業の急成長など、この数年来、環境が大きく変化してきました。

このような中、国産材の長期的・計画的・継続的な需要と供給のバランスをどう調整していくのかということが大きな課題となっています。

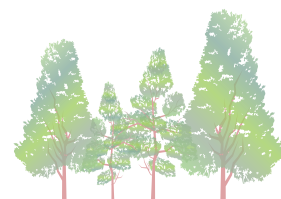
需要増大が見込まれる国産材の供給に当たっては、森林・林業の地域性を十分に踏まえ、その地域に立脚した木材流通システムにより、国産材のサプライチェーンを構築していくことが極めて重要になります。

また、東北地方では人工林の再生林の割合が3割程度の現状にあることから、健全な森林への誘導を進めるため、「人工林の森林資源サイクル」を計画的・継続的に存続させる不断の努力が必要となっています。

ノースジャパン素材流通協同組合は、「協同組合の社会的責任を果たす」という基本的な考え方を根底に置きつつ、「国産材の円滑な流通システム」と「森林資源サイクル」の構築を目指して、事業運営の5つの柱に基づき、長期的・継続的、かつ着実に事業展開を図っていきます。



林経営の実現



事業運営の5つの柱

1. 国産材の安定供給

「需要」と「供給」の間に立ち、「触媒」的役割を發揮しながら国産材を安定的に供給していきます。

2. 流通対象の多様化

製材用、合板用の素材から発電燃料の木質バイオマスまで、流通対象の多様化を図るとともに、効率的な原木輸送システムの構築に努めていきます。

3. 人工林の森林資源サイクルの構築

「人工林の森林資源サイクル」の構築を目指し、低コスト再造林技術の実証・普及と森林再生事業に取り組みます。

4. 組合員の知識・技術の向上と後継者の育成

各種研修会、講演会の開催や情報誌の発行等を通じ、組合員の知識・技術の向上、後継者の育成を図っていきます。

5. 協同組合の社会的責任の推進

社会を構成する当事者として、「協同組合の社会的責任」を果たすための取り組みを事業運営の中に組み込んでいきます。

1 国産材の安定供給



組合員の素材の共同販売

- 組合員が生産するスギ、カラマツ、アカマツ等の素材(丸太)を取りまとめ、工場側が要望する樹種・数量・規格・品質の素材を計画的・安定的に供給しています。
- 信頼関係を築くことを第一に考え、需要側と供給側との間に立って出荷・納入の調整を行うとともに、工場からクレーム等があった場合は速やかに対応しています。
- 流通コストを削減するため、素材は山元から工場に直送しています。
- 納入素材の規格・品質の確保・向上を図るため、組合員への指導を徹底するとともに、納入素材の規格・数量の確認を行う受入検査を実施しています。
- 専用ソフトの活用により、納入数量の即日集計や原木代金の翌月決済など迅速な事務処理を進めています。
- 納入素材の規格・品質や販売価格等に関し、必要に応じて工場と交渉を行っています。



合板工場での受入検査

国有林材システム販売による木材供給

- 「国有林材の安定供給システム販売」を活用し、国有林との協定に基づいて、国有林素材を需要者に安定的に供給しています。

委託販売事業

- 国有林素材や組合員が生産した素材を合理的、効率的に販売するため、入札による委託販売を行っています。





流通対象の多様化.2

素材流通の多様化

- 東日本大震災により合板工場が甚大な被害を受け、素材販売の途が閉ざされたことから、新規受け入れ工場の開拓、内航船利用による広域流通など、販売先の確保・拡大に努めました。その後、合板工場が復旧し、結果として販売先は大震災以前より多様化しています。
- 東北地方ではFIT（再生可能エネルギー電気の固定価格買取制度）に基づく複数の木質バイオマス発電所の建設が進んでいます。このうち、岩手県では平成26年4月から稼動した発電所を含め3つの発電所と燃料供給の協定を締結し（令和4年3月現在）、それぞれに燃料用木質バイオマスの供給を行っています。また、青森県と秋田県の発電所にも供給しており、燃料用材の取扱量は増加しています。
- このように製材用から合板用、製紙用、木質バイオマス発電用まで、多様な樹種・規格の素材の流通に取り組んでいます。



合板用材、バイオマス用材の生産



移動式チップパーによる林地残材のチップ生産

未利用木質資源の有効活用

- 小径材・低質材等の土木用資材や発電燃料への利用を進めるとともに、林地残材の有効活用に向けて低コストで効率的な搬出システムの実証に取り組んでいます。

効率的な原木輸送の追求

- 原木輸送は、組合員や運送会社のトラック・トレーラーによる山元から工場への直送が主体ですが、内航船による広域流通も行っています。
- 素材生産業者と運送会社との連携強化や、帰り荷の確保等実車率の向上を図るなど、効率的な原木輸送システムの構築を進めています。

合法木材の普及と産地の明確化

- 合法木材等供給事業者の認定団体として、当該供給事業者の認定を行うとともに、合法性、持続可能性の証明された木材（合法木材）の普及に努めています。
- 発電用木質バイオマス証明、岩手県産材証明など、出材元の明確化、分別管理の徹底等により、産地・由来が証明された素材や木質バイオマスの販売に取り組んでいます。



トレーラーによる輸送



内航船による広域輸送



合法木材等供給事業者認定研修会

3 人工林の 森林資源サイクルの構築

再造林基金への協力

- 皆伐の増加に対して再造林が進んでいないことが大きな問題となっていることから、再造林を推進することを目的に各県で設立が進められている再造林基金に対して、当組合は「岩手県森林再生機構」及び「青い森づくり推進機構（青森県）」の一員として、基金に協力金を拠出しています。今後、他県の森林再生の取組に対しても協力していきます。



岩手県森林再生機構植樹祭

再造林促進奨励事業の実施

- 組合員による低コスト再造林を促進するため、独自の助成を行っています。

カラマツ種子採取の取組

- カラマツの造林面積は増加していますが、種子の不足が大きな課題となっています。そのため、組合員の皆様の協力を得てカラマツ球果の結実情報を収集し、球果の採取を行っています。



カラマツ種子採取



カラマツ低コスト植栽試験（植栽密度 1,500 本 /ha）



カラマツコンテナ苗

低コスト作業の実証

- 平成 20 年度から、組合員の伐採現場において重機を利用した伐採と地拵えの一貫作業の実証事業を行い、労働力・経費が軽減されることを確認しています。
- 低密度植栽は、苗木代や植栽費用の削減だけでなく、保育間伐の省略等、将来的なコストの縮減にもつながることから、組合員の協力を得て、実証試験地を各地に設定しています。
- 植付け作業が容易で植栽の時期を選ばない「コンテナ苗」の活用を進めています。
- 保育作業の中でも労力・経費の負担が大きい下刈り作業の省力化試験を行っています。

組合員の知識・技術の向上 と後継者の育成



経営技術研修会の開催

- 組合員及び組合員の後継者・従業員の知識・技術の向上を図るため、素材生産現場で必要な伐木・造材や作業道作設、作業計画の作成などの研修や林業経営に関する知識を向上させるための研修を行っています。



高性能林業機械安全講習

視察研修会の開催

- 出荷先の工場や木材市場、林業機械展示会などの視察研修会を開催しています。



カラマツ長尺材取扱工場の視察

林業講演会の開催

- 木材の流通及び需給動向、林業の成長産業化、木質バイオマスの搬出、林業労働力確保、国産広葉樹林の利用など様々なテーマを取り上げ、林業講演会を開催しています。



林業講演会

青年部会の活動

- 会員の技術・知識向上のための研修や、児童・生徒向けの森林・林業普及啓発活動に精力的に取り組んでいます。



普及啓発イベント「げんき森林モリフェスティバル」

情報提供

- 機関紙「N J素流協 News」、ホームページ等により組合員ほか関係者に対し情報を提供しています。
- 当組合の取り組みについては、理事長等が各地で講演を行うなど広く紹介しています。



N J素流協 News

林業就業に向けた研修への協力

- 「いわて林業アカデミー」サポートチームの一員として研修実施に協力しています。また、青森・宮城・秋田・山形等の林業大学校等の研修にも協力しています。
- その他、「緑の雇用」研修等での講義を行っています。



いわて林業アカデミー研修

5 協同組合の社会的責任の推進



協同組合の社会的責任を果たすための取り組み

- 平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の際は、組合員が被災地に駆けつけ、合板工場から流出した丸太の回収や、がれきの撤去作業に当たったほか、関係機関と連携して、仮設住宅用の杭材や養殖用いかだ材の供給に取り組みました。
- 平成 31 年 3 月 28 日に岩手県知事と「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結し、大規模な災害により発生した流木や流出丸太の除去など、当組合の専門分野で岩手県の災害応急対策業務に協力することとしました。
- 組合員が行う皆伐施業について、環境や伐採後の再生林に配慮した木材生産を行うための「伐採・搬出・再生林作業ガイドライン」を策定し、ガイドラインのもと持続的・安定的な森林資源サイクルの構築を目指しています。



流出丸太の回収作業

NJ素流協の社会的責任における4つの原則

- ① N J素流協は自らの目的に基づいて事業を遂行する過程及び結果において、社会や人間に影響を及ぼすことになる。それが悪影響であるならば、最小限に抑えるべきである。
- ② N J素流協がもたらすかもしれない悪影響を予測し、その予防措置を取る。
- ③ 悪影響の防止を含め、要請される社会的ニーズを果たすことが自らの成長機会と捉える。
- ④ N J素流協のトップは、社会的に公的な存在であり、相当の社会的責任を負う。

海岸防災林の再生に向けた活動

仙台森林管理署との「社会貢献の森」協定のもと、海岸防災林の再生活動を行っています。名称を『ノースジャパン100年復興の森』とし、平成 29 年度にクロマツを植栽。以後 10 年間にわたり保管管理に取り組みます。



組合員参加による植栽(平成29年5月12日)



ノースジャパン素材流通協同組合
代表者 理事長 鈴木信哉

〒020-0024
岩手県盛岡市菜園1丁目3番6号(農林会館5階)
TEL: 019-652-7227
FAX: 019-654-8533
<http://www.soryukyo.or.jp/>



〈交通〉JR 盛岡駅から徒歩で……………約 15 分
JR 盛岡駅から車で……………約 5 分
盛岡南インター又は盛岡インターから車で……………約 20 分